

7.4 生物・生態系

7.4.1 調査事項

調査事項は、表 7.4-1 に示すとおりである。

表 7.4-1 調査事項（生物・生態系：工事の完了後）

区 分	調 査 事 項
予測した事項	・施設の供用に伴う陸上動物（鳥類）の変化の内容及びその程度
予測条件の状況	・建物配置の状況、緑化の状況
環境保全のための措置の実施状況	・敷地境界付近に植栽を施し、まとまった緑地を確保する。 ・植栽樹種には周辺地域の現存植生及び鳥類や蝶の生息・生育環境を考慮した種を選定し、高木、中木、低木を取り混ぜて植栽を施す。 ・樹木の良い生育を維持するように適切に管理する。

7.4.2 調査地域

調査地域は、計画地及び計画地周辺とした。

7.4.3 調査手法

調査手法は、表 7.4-2 に示すとおりである。

表 7.4-2 調査手法（生物・生態系：工事の完了後）

調査事項	施設の供用に伴う陸上動物（鳥類）の変化の内容及びその程度	
調査時点	工事の完了後の代表的な時点とした。	
調査期間	予測した事項	工事の完了後の代表的な時点の猛禽類の営巣時期を勘案した時期とし、連続した3日間調査とし、平成30年1月29日（月）～1月31日（水）の3日間の午前9時～午後3時とした。
	予測条件の状況	供用開始後の適宜とした。
	環境保全のための措置の実施状況	供用開始後の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地及び計画地周辺とした。
	予測条件の状況	計画地内とした。
	環境保全のための措置の実施状況	計画地内とした。
調査手法	予測した事項	任意観察調査による方法とした。
	予測条件の状況	現地確認（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とした。
	環境保全のための措置の実施状況	現地確認（写真撮影等）及び関連資料の整理による方法とした。

7.4.4 調査結果

(1)施設の供用に伴う陸上動物（鳥類）の変化の内容及びその程度

ア 予測した事項

①鳥類の出現状況概要

供用後の事後調査結果は、計画地及びその周辺において表 7.4-3 に示すとおり、4 目 12 科 16 種の鳥類が確認された。調査期間中、猛禽類は確認されず、重要種も確認されなかった。

工事前(平成 27 年 1 月)、工事中(平成 29 年 1 月)、供用後(平成 30 年 1 月)の鳥類相を比較すると、確認された鳥類は、工事前は 24 種であったが、工事中は 15 種に減少し、供用後は 16 種であった。

工事前の計画地は、一面の草地に樹木がまばらに生える自然環境であり、人も立入禁止であったため、確認種数が多かったと考えられる。

工事中は、工事前の自然環境の面積が減少し、かつ、重機の稼働や人の動きも激しいため、予測と同様に鳥類の確認種数が減少したと考えられる。

供用後は、植樹帯は創出されたものの、植栽樹自体がまだ細い箇所が多く、また駐車場等での車や人の出入りが多く、工事中とほぼ変わらない確認種数及び鳥類相であったと考えられる。

鳥類相の変化で特に顕著なのは、工事前に確認されていたキジ、チョウゲンボウ、モズ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカなどの草原性鳥類が、工事中～供用後では見られなくなったことである。これは工事前では、餌となる草の種ができるような自然の草地が広がっていたのに対し、供用後では草地がほとんどなくなり、あっても鳥の餌となる種などは生らない芝生になったためと考えられる。

本事業では、樹木や緑地を整備し、草原性鳥類の生育環境はあるため、今後、種は増えると考えられる。

表 7.4-3 確認された鳥類一覧

目名	科名	種名	学名	重要種			確認状況		
				種の保存法	環境省 RL 2017	東京都 RL 2010 (南多摩)	工事前 (H27)	工事中 (H29)	供用後 (H30)
キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus robustipes</i>			NT	●		
ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis orientalis</i>				●	●	●
カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo hanedae</i>				●	●	●
タカ	タカ	トビ	<i>Milvus migrans lineatus</i>			NT	●	●	
		ハイタカ	<i>Accipiter nisus nisosimilis</i>		NT	VU	●		
キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki nippon</i>					●	●
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus interstinctus</i>			VU	●		
		ハヤブサ	<i>Falco peregrinus japonensis</i>	国内	VU	VU	●		
スズメ	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus bucephalus</i>			NT	●		
	カラス	オナガ	<i>Cyanopica cyana japonica</i>				●		●
		ハシボソガラス	<i>Corvus corone orientalis</i>				●	●	●
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos japonensis</i>				●	●	●
	シジュウカラ	シジュウカラ	<i>Parus major minor</i>				●	●	●
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis amaurotis</i>				●	●	●
	メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonica japonica</i>				●	●	●
	ムクドリ	ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>				●	●	●
	ヒタキ	ツグミ	<i>Turdus naumanni eunomus</i>				●	●	●
		ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus auroreus</i>				●		●
		インヒヨドリ	<i>Monticola solitarius philippensis</i>			NT		●	
	スズメ	スズメ	<i>Passer montanus saturatus</i>				●	●	●
	セキレイ	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba lugens</i>				●	●	●
		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>			NT	●		
	アトリ	カワラヒワ	<i>Carduelis sinica minor</i>				●		
		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes japonicus</i>						●
	ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides ciopsis</i>				●		
		カシラダカ	<i>Emberiza rustica latifascia</i>				●		
(ハト)	(ハト)	ドバト	<i>Columba livia</i> (家禽が野生化)				●	●	●
7目	17科	26種	合計	1種	2種	8種	24種	15種	16種

<種名および配列>

『日本鳥類目録 改訂第7版』(日本鳥学会, 2012)に従った。

<重要種の選定根拠>

『文化財保護法』(昭和25年法律第214号)・・・該当種なし

『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)』(平成4年法律第75号)

国内希少野生動植物:国内、国際希少野生動植物:国際

環境省RL:『環境省レッドリスト2017』(環境省, 2017年)において以下のカテゴリに該当する種

EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

東京都RL:「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2010年版」(東京都, 2010)における掲載種

CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA類 EN:絶滅危惧ⅠB類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 ※:留意種

注:網掛け部分は重要種を示す。

イ 予測条件の状況

①建物配置の状況、緑化の状況

建物の配置の状況及び緑化の状況は図 5.2-3 (p.10 参照)、図 5.2-7 (p.19 参照) に示すとおりである。

ウ 環境保全のための措置の実施状況

環境保全のための措置の実施状況は、表 6.4-1 に示したとおりである (p.30 参照)。

7.4.5 予測結果と事後調査の結果との比較検討

(1)施設の供用に伴う陸上動物（鳥類）の変化の内容及びその程度

鳥類の種数は、評価書作成時（工事前）では 24 種、工事中は 15 種、工事完了後は 16 種であった。

本事業では敷地境界付近に植栽を施し、まとまった緑地を確保するとともに、植栽樹種は、鳥類や蝶に適合した高木（エゴノキ、アオダモ等）、中木（リョウブ、ウワミズザクラ等）、低木（シャリンバイ、オオムラサキツツジ等）を取り混ぜることにより、鳥類や蝶等の生息環境を創出している。

また、樹種及び場所ごとに剪定、除草等を実施し、適切に管理している。施設の建設に伴って変化が見られたが、適切に環境保全のための措置を実施することで、今後、鳥類の種は増えると考えられる。

このことから、予測結果の「計画地内は猛禽類（食物連鎖の頂点捕食者）の採食地としての利用はなくなるが、食物連鎖の高次消費者となる小鳥が生息する環境が創出されると予測する」の環境と同様の環境が創出されていると考えられる。